

平成 26 年 12 月 16 日

秩父市議会議長 小 櫃 市 郎 様

まちづくり委員長 富 田 俊 和

まちづくり委員会行政視察報告書

- 1 期 日 平成 26 年 10 月 1 日 (水) ～3 日 (金)
- 2 視察先 山口県宇部市、大分県宇佐市、大分県別府市
- 3 参加者 委員長 富田 俊和 副委員長 山中 進
委員 江田 治雄 委員 大久保 進
委員 笠原 宏平 委員 松澤 一雄
委員 荒船 功

4 視察目的

山口県宇部市 「再生可能エネルギー導入によるまちづくりについて」
「ときわ公園のエコパーク化の推進について」

○ 市の概要

宇部市は、本州の西端、山口県の南西部に位置し、西は山陽小野田市、東は山口市、北は美弥市に接し、南は瀬戸内の国防灘に面する科学工業都市です。第二次世界大戦後の急速な工業化により、ばいじん降下による大気汚染などの公害問題を引き起こしましたが、産官学民一体となった「宇部方式」によって公害対策に取り組み、環境改善が図られました。その実績は、産業発展と市民福祉の調和を目指す先進的事例として広く知られるとともに高く評価され、平成 9 年に国際環境計画 (UNEP) から「グローバル 500 賞」を受賞されました。

化学工業が発展した宇部市は、昭和 14 年に高等工業学校 (現在の山口大学工学部) を誘致し、それを契機に現在も多く的高等教育機関を有しています。また、第三次救急医療機関である山口大学医学部附属病院を初めとする数多くの医療施設が開設され、市民 1 人当たりの病床数や医師等の医療関係資格者も多く、医療環境が充実しています。

平成 22 年 4 月から、第四次宇部市総合計画基本構想に基づき、「環境」、「安心」、「健康」、「市民力」、「地域ブランド」の 5 つのキーワードに、「みんなで築く 活力と交流による元気都市」を目指したまちづくりに取り組んでいます。

○ 事業の概要

「再生可能エネルギー導入によるまちづくりについて」

再生可能エネルギーの導入指針の具体的な取り組み 10 項目は以下のとおりです。

- ①観光・交流施設への再生可能エネルギー施設の導入
- ②メガソーラー事業の推進
- ③下水汚染や木質資源を活かしたバイオマスシステムの導入
- ④中山間の地域資源を利用した再生可能エネルギー施設の導入検討
- ⑤再生可能エネルギー(や環境分野)に関連する企業の支援
- ⑥防災拠点・避難場所等公共施設への再生可能エネルギー施設の導入
- ⑦一般住宅への再生可能エネルギー施設の導入促進
- ⑧再生可能エネルギー施設の普及
- ⑨市民共同の発電事業
- ⑩再生可能エネルギーの調査研究



「ときわ公園のエコパーク化の推進について」

ときわ公園は、自然環境に恵まれた都市公園で、園内には、約 100 ヘクタールに及ぶ人造湖「常盤湖」や遊園地、数多くの野外彫刻作品を展示する「彫刻野外展示場」熱帯植物、サボテン、ラン類を楽しむことができる「ときわミュージアム」などがあります。「花と緑と彫刻のまち」宇部市のシンボルとして、市民を始め県内外から訪れる人々に親しまれており、「日本の都市公園 100 選」「日本さくら名所 100 選」



「美しい日本の歩きたくなるみち 500 選」にも選ばれています。現地視察の中で説明を受けたところ、園内で使用している電力は自然エネルギーとのことでした。

大分県宇佐市 「クヌギ林が育む資源循環システムについて」

「宇佐神宮を中心とした景観・街なみ整備について」

○ 市の概要

宇佐市は平野部での土地利用型、山間部での高付加価値農業や農業資源を活かしたグリーンツーリズム、国防難の豊かな恵みを受けた水産業、酒類製造のほか自動車部品や電気機器などを製造する各種技術産業、歴史、文化遺産を活かした観光など、多彩な産業活動が営まれています。宇佐市のまちづくりのテーマ及び主要施策は次のとおりです。

テーマ「彩りに満ちた、暮らしの元気都市」「夢と希望に満ちた新しい宇佐市」「交流満足度日本一のまちづくり」を目指し、全力で取り組んでいます。

主要施設大綱

- ①環境との調和と共生をめざす「美しい環境都市」
- ②自然と調和し安全かつ快適な「住みよい生活都市」
- ③地域社会が連携した保健と福祉で「安らぎの生活都市」
- ④自然の恵みと特

徹的な文化遺産の継承と創造で「誇りある文化都市」 ⑤多様で広大な自然資源を活用した「豊かな田園都市」 ⑥人と人、市民と行政が協働する「賑やかな交流都市」 ⑦効率的な総合行政体、ふとこころの深い「慎ましい未来都市」

○ 事業の概要

「クヌギ林が育む資源循環システムについて」

しいいたけの成長に必要な栄養源として供給されているクヌギは、伐採しても約 15 年で再生するという特徴があるので、その優れた特性を活かし、国東半島の宇佐地域では原木しいたけ栽培が盛んに行われています。

国東半島地域は、火山性の土壌と急短な河川、狭小な谷からなり、降水量が少なく河川の利用が困難であったので、安定的に水田農業を営むためには、ため池が必要不可欠なものでした。そのため、この地域には、約 1200 基もの小規模なため池が築造され、それらのため池を連携させた用水供給システムが構築されたそうです。

クヌギ林は、落ち葉によるスポンジ状の腐葉土に覆われて自然のダムとして雨水を蓄えます。一部の水は地表を流れてため池へ導かれ、また別の一部はミネラルを含んだ地下水となってやがて里山に湧出し、その一部もため池へ注がれるので、水田農業へ無駄なく活用されています。また、最終的に河川へ流れ出た水は、やがて瀬戸内海へ注がれ、半島沿岸の栄養源となる仕組みです。この宇佐地域の循環システムは、平成 25 年 5 月 30 日に「世界農業遺産」に認定されました。

「宇佐神宮を中心とした景観・街なみ整備について」

宇佐神宮のお膝元として賑わいを見せていた鳥居前町が、時代の変化とともに輝きを失いつつある状況となっているそうです。そのため、宇佐神宮の鳥居町としての歴史的町なみを活用するとともに、周辺エリア一帯に歴史と緑が調和した景観形成を図り、宇佐市の観光の顔として魅力あるまちづくりを実現する計画が立案されました。官民協働のもと、地元主導で、平成 24 年 8 月に「宇佐神宮周辺景観まちづくり推進協議会」を立ち上げ、このまちづくり計画がスタートしています。25 年度より事業着手となり、今後は道路の美装化や建物の修理・修景等の神宮周辺の景観・街なみ整備計画を予定しています。また、27 年度に開催される「臨時奉幣祭（勅使祭）」という大きな祭祀を盛大に行うため、地元の方が一丸となって積極的に協議しているそうです。

大分県別府市 「泉都ツーリズム支援事業、泉都まちづくりネットワーク事業について」

○ 市の概要

別府市は、九州の北東部、瀬戸内海に接する大分県の東海岸のほぼ中央に位置し、南は野猿で有名な高崎山をへだてて大分市と隣接、北は国東半島の市町村と接し、西は阿蘇くじゅう国立公園に属する由布岳、鶴見岳の連山を中心に南北に半円形に連なる鐘状火山に囲まれ、その裾野がなだらかに波静かな別府湾に続く扇状地です。

市内には、古くから「別府八湯」と呼ばれる温泉群が点在し、2,300 を数える源泉から

湧出する温泉は、毎分8万7千リットルにも及び、衣料、浴用など、市民生活だけでなく観光、産業面にも幅広く利用されています。

昭和25年制定の「別府国際観光温泉文化都市建設法」の指定を受けるなど、都市として発展を続けるとともに、平成12年には、公私協力法式により学生の半数が留学生である「立命館アジア太平洋大学」が開学し、国際観光温泉文化都市として、既存の大学、姉妹都市、友好都市と学術、国際交流を積極的に図っています。現在では、景観行政団体として、海、山、湯けむりの素晴らしい景観と日本一の温泉を活かした「住んでよし、訪れてよし」の自然環境型 ONSEN ツーリズムのまちづくりを推進しています。

○ 事業の概要

別府市では、組織されたまちづくり団体が独自性・地域制を発揮し、各分野でまちづくりに取り組んでいます。これらの活動をさらに広めることにより、市民が主体となるまちづくりを進め、別府市が推進する「住んでよし、訪れてよし」のまちづくりを目指している状況です。事業の種類、募集する事業企画には、以下のとおり2種類あるとのことでした。



①市民提案型事業

地域の活性化や問題解決を目的に、新たに取り組む事業や既存の活動を拡充する事業で市民の自発的な参加によって行われる公益性のある事業。

②行政提案型共同事業

市が、テーマ、計画、事業等の概要をあらかじめ示し、これをもとに市民活動団体が企画提案を行い、市と協働して取り組む事業。

【まちづくり委員会行政視察報告 富田 俊和】

私達まちづくり委員会は他市の行政視察を行い今後の秩父市における市政進展を推進するものであり以下報告する。

1日目は、山口県宇部市である。「緑と花と彫刻のまち」宇部市は、かつては石灰のまちで経済発展を成したが現在では石炭から石油、そして太陽光へと変化している。また隣町の美祢市で採掘させる石灰石運搬に供される宇部興産専用道路は、産業観光バスツアー第1位となっている。市の東南部に「ときわ公園」がありその中で消費する電力は自然エネルギーを採用している。ときわ湖の浄化についても、また街路灯についても再生可能エネルギーである。公園内に石灰記念館や植物園もあり市民や観光客の憩いの場となっており現在は小動物園も建設されている。総面積180 haの公園は彫刻の館等市が推進する全ての事業の結集されているように思える。秩父市に於いても今後羊山公園をどのように運営するか一考したい。

2日目は、大分県宇佐市である。宇佐神宮を始め東西本願寺別院、龍岩寺、鰻絵、石橋など古い歴史文化遺産が多く保存、継承されているまちである。産業としては昭和50年度比、第一次産業は60%減少しているが、第三次産業は30%の増加で地方都市の例外ではない。受け継がれる農耕文化として日本棚田百選にも選ばれた両合棚田があり、その水利としてため池が300基も存在し、天水農業を確立している古来からの知恵である。また観光事業として新規に取り組んでいるのが宇佐神宮を中心とした景観まちなみ整備事業である。理由として、以前240万人の観光客を集めた宇佐神宮周辺であったが、現在では180万人まで落ちこんでいるためである。国宝や世界農業遺産があっても日本全体の経済が好転しない限り地方都市へ人の足は向かないのが現実である。

【行政視察報告 山中 進】

宇部市 (山口県)

「日本の都市公園100選」にも選ばれた、日本初の「石炭記念館」があるときわ公園内に、施設で使用する電気を風力発電や太陽光発電設備、ペレットによる暖房などを整備。目で見て触れ、学び、遊べるときわ公園の徹底したエコパーク化を推進しています。「石炭から再生可能エネルギーへ」と訪れる市民の憩いの場や教育の拠点とする取り組み。こうした取り組みが、当秩父市でも羊山公園を中心に再生可能エネルギーを利用した公園整備が可能性を求められる視察であった。

宇佐市 (大分県)

全国4万社余りの八幡宮の総本宮・宇佐神宮があり、正月には全国からの参拝客でにぎわう宇佐神宮を中心とした門前町です。宇佐神宮以外にも観光名所が多く、海・山・里が市内にあり、県内有数の観光都市でもある。

一方、地域においては、少子高齢化・過疎化の進行による集落機能の低下や、コミュニティ意識の希薄化などが進んでいることから、地域が行政と共に主体的にまちづくりを担う仕組みの再構築が求められています。宇佐市では、『宇佐市協働のまちづくり指針』を策定し、小規模集落や中山間地域の暮らしを小学校区単位で支え合う「新たな地域コミュニティ組織」の形成を支援しています。秩父市でも、地域のまちづくりについて人がつながり、地域が輝くまちづくりは、共通しているものと思われる視察でした。

【まちづくり委員会行政視察報告 江田 治雄】

大分県宇佐市を視察した報告をします。

宇佐市は、秩父と同様に文化財の宝庫と言われています。全国八幡神社の総社宇佐神宮をはじめ、東西本願寺別院、龍岩寺や石橋など、古い歴史・文化遺産が多く保存・継承されている街でした。電車と陸路で宇佐市入りした時に、橋の欄干、道路脇の安全柵等が、朱色でペイントされており、神宮の町のイメージづくりに予算を投じていることが解りました。現在、宇佐市では「宇佐神宮周辺景観まちづくり」を勧めており、その事業の進捗状況の説明を受けました。宇佐市全域を景観区域に指定、重点地区を鳥居前町とし、その再生に取り組んでいました。平成25年～29年度の5ケ年計画で、既に事業が一部着工されていました。まちづくりの方向性として「暮らしと観光の共存」をテーマに、地権者の協力のもと、当市の番場通りの様な石を敷き詰めた道路や、本町・中町通りの街並み環境の整備等、同様な事情計画でありました。担当職員の話によると、国・県の補助金を活用し、何としても5年間を目標に事業が完遂するよう全力を尽くしたいと、抱負を語っていました。その意気込みが印象的でありました。



整備が始まる鳥居前町通り

【行政視察を終えて 大久保 進】

始めに山口県宇部市の「再生可能エネルギー導入指針」について、安心、安全なまちづくりとして、・防災拠点、避難場所等公共施設への再生可能エネルギーの導入・一般住宅等への再生可能エネルギーの導入促進を行っている。また「ときわ公園次世代エコパーク化構想」として、公園内に、省エネ水質浄化装置、太陽光発電式LED街灯、ヤギによる除草など、環境に配慮した内容となっている、公園内は全て電気自動車での走行となっています。

続いて大分県宇佐市の「世界農業遺産」と「宇佐地区街なみ環境整備事業」について、クヌギを活用した原木シイタケ栽培、複数のため池を連携させた用水供給システム、クヌギ林でかん養された水資源を活用した水田農業、クヌギ林とため池群が育む多様な生態系、このシステムは多様な農林水産業を担うとともに多様な生態系を保全し多くの農耕にまつわる民族行事が今も継承されている。街なみ整備事業では平成25年～29年の5ケ年計画で実施している。昔ながらの街なみを守るために、増改築費用の支援、電柱地中化を行っている。

大分県別府市では、自主的に組織されたまちづくり団体が自主性・地域性を発揮し「住んでよし、訪れてよし」の街づくりを推進するため、支援制度事業を行っている。



【行政とまちづくり 笠原 宏平】

宇部市の視察は、最近注目されている再生エネルギーの導入について、常盤湖の公園内に風力発電や太陽光発電設備などを整備し、目で見て触れて学び遊べるエコパーク化を推進し、再生エネルギーの観光・教育拠点としていました。歴史的な石炭記念館と次世代エネルギーの学習で、地域・日本の観光の地として考えた取組でした。

大分県宇佐市では、宇佐神宮周辺まちづくりの整備方針を24年8月に協議会を発足し、25年度より事業に着手し丁度視察時、電線の地中化工事を行っていました。工事にあたり古い街並みの整備に住民の理解を得る取組として、街並みの変わり具合をリアルにCGを使い説明をする方法を見せて頂きました。

別府市では、まちづくりネットワーク事業事態を見てきました。

その1つは、市内の住民が誇りと愛情を持って、住みやすい街を目指してまちづくりに取り組んでいるグループがお互いに連携、交流しネットワークを広げ、市民主体のまちづくりを進めるものでした。もう一つは補助金制度事業で、市民が自主的に組織されたまちづくり団体で、「住んでよし訪れてよし」のまちづくりを推進し支援する事業で、事業内容により50万円から100万円の補助が受けられ、平成15年から行われ、市の予算は最高500万円を付けた時期もあり別府市では強く推進しまちの活性化を果たしておりました。

やはり市民が主体となってまちを明るく元気なまちづくりを進められればと思った視察でした。

【クヌギ林とため池がつなぐ農林水産循環 松澤 一雄】

大分県宇佐市では、世界農業遺産に取り組んだ国東半島地域の「クヌギ林とため池がつなぐ農林水産循環」を視察した。世界農業遺産とは、食料の安定確保を目指す国連の食糧農業機関が、グローバル化、環境悪化等により衰退の途にある伝統的な農業や文化、土地景観の保全と持続的な利用が図られている地域を認定し、世界的に重要な農業地域を次世代に引き継ぐためのものであり、国内で5か所、世界で25か所が認定されているとのことである。

宇佐市のコンセプトは、クヌギ林とため池群によって持続的に維持されている日本一の原木椎茸生産をはじめとする農林水産循環システムの構築である。椎茸の栽培に必要なクヌギは、伐採しても15年で藁（ひこばえ）によって再生するという特性からこの資源を循環させ、原木椎茸栽培を盛んに行っている。また、この地域は、降水量が少なく安定的な水田農業を営むうえで、ため池が必要不可欠なことから小規模なため池を数多く築造し、ため池同士を連携させた用水供給システムを構築している。クヌギ林の落葉は、スポンジ状の腐葉土となり、自然のダムとして雨水を蓄え、やがて地下水となって里山に湧き出し、一部は沢を流れため池へ流れ込み、水田農業に無駄なく活用され、最終的にはこの栄養分を含んだ水は海へ注がれ、豊かな漁場を形成するといったサイクルである。古くから受け継がれたこの農林水産文化は、定住する人々の信仰と絡み合い、様々な行事や御田植祭り等特徴ある祭礼文化を残すとともに、棚田、神社等、地域のより良い景観を形成している。宇佐市を始めとする国東半島の各市町村が一体となって世界農業遺産の認定を2年で取得した努力には深い感銘を受けた。

【山口県宇部市「再生可能エネルギー導入によるまちづくり」 荒船 功】

市では、地球温暖化対策や循環型社会の形成、自然環境の保護など、総合的な環境施策の一つとして、再生可能エネルギーの導入を策定目標、平成28年度を目標年度とし施策展開テーマを下記の3点とした。

- ①地域資源の活用と産業力の強化（○観光・交流施設への再生可能エネルギー設備の導入
○メガソーラー事業の推進 ○下水汚泥や木質資源を活かしたバイオマスシステムの導入
○中山間の地域資源を利用した再生可能エネルギー設備の導入検討 ○再生可能エネルギーに関連する企業の支援）
- ②安全安心なまちづくり（○防災拠点、避難場所等公共施設への再生可能エネルギーの導入
○一般住宅等への再生可能エネルギーの導入促進）
- ③市民協働（共同）の事業づくり（○再生可能エネルギーの普及 ○市民共同の発電事業
○再生可能エネルギーの調査研究）

重点プロジェクト

- 1、ときわ公園エコパーク化の推進～ときわ湖を中心に広がる面積189ヘクタールの総合公園を環境、芸術、スポーツ、福祉の融合した先進的モデル公園化。
- 2、市の未利用財産の活用～ ○1市の未利用財産を提供（賃貸借）し、民間資金等を活用することにより太陽発電を設置。○2貸付料等の収入で新たな再生可能エネルギー設置の導入や、里地・里山の保全、バイオマス関連事業などの実施。

視察して・・・計画は、緒に付いたところであり、今後の展開が期待されます。